The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics

kcg.edu

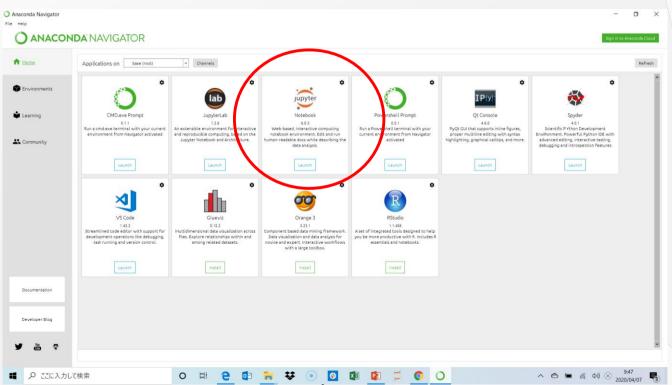
コンピュータプログラミング概論 (a) Fundamentals of Computer Programming 2021年秋第2回 eラーニング資料

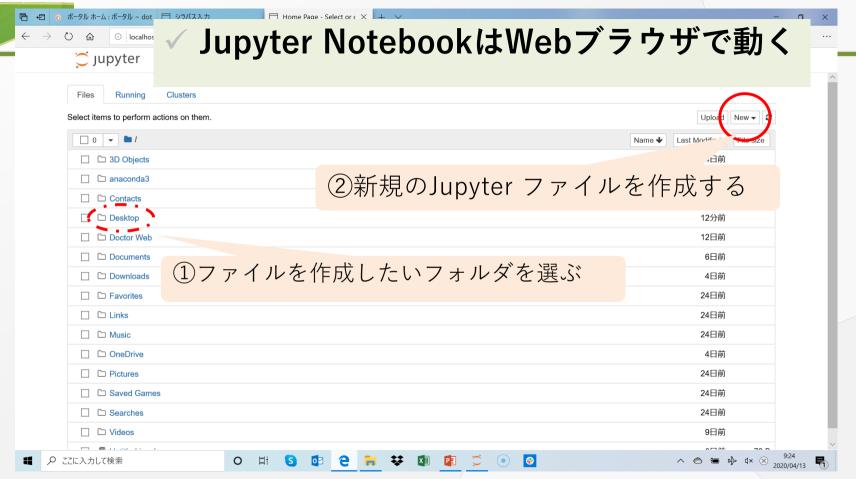
安 平勲 h_an@kcg.ac.jp

PythonをJupyter Notebook(会話型)で動作

Jupyter Notebookでプログラミング

■ Jupyter Notebookを起動(以下はWindows)





Jupyter Notebookでプログラミング

①Jupyterのセルにソースコードを入力。そして、実行

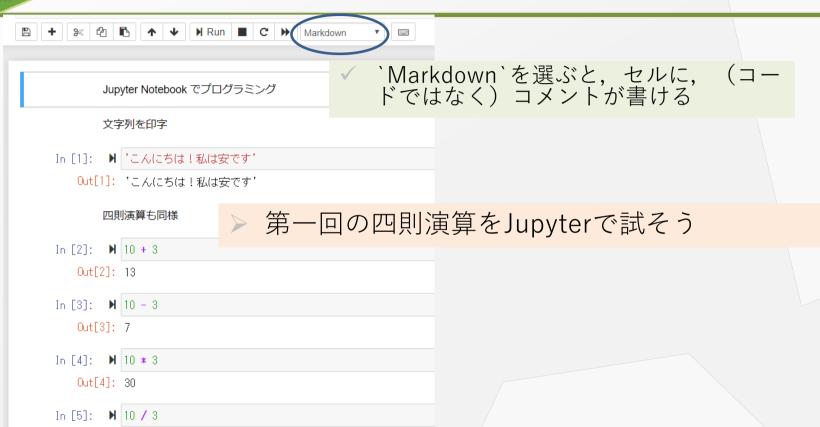


③次に、Notebookファイルを保存して、再編集しよう

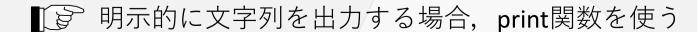
4

Out[5]: 3.3333333333333335

Jupyter Notebookでプログラミング



Jupyter Notebookでのprint()関数



数値、文字列、演算子、変数、ブール値、配列

Pythonプログラムの構成

■ プログラム言語Pythonを自然言語と対比させると…

プログラム言語; Python

数值,文字列,演算子,变数

文(code), 命令文(statement)

関数、メソッド、クラス

モジュール

パッケージ,ライブラリ

自然言語

名詞,動詞,形容詞などの品詞

文, 文章

段落

節,章

論文,本

Pythonのデータ型

第1回資料

■ データには型がある

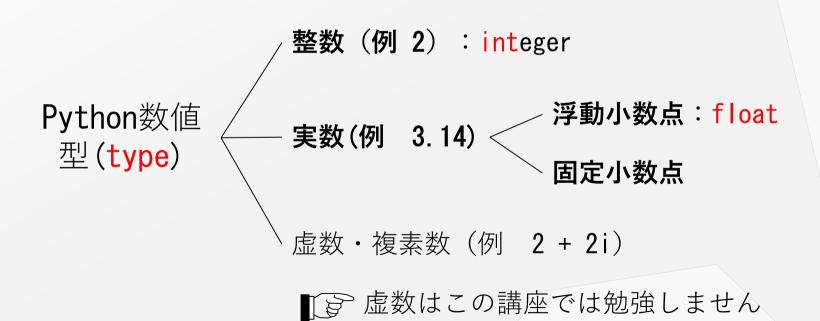
Pythonのデータ型(data

文字列(string)		"kcgi", '京都', "123" など (" または ' で囲む)	
数値	整数(integer)	123, -3, 0 など	
	浮動小数点(float)	123.0, 3.14, 0.0など	
真偽値(boolean)		True または False	

※ 数値の 123 と文字列の "123"は別物

データ型typeと**数値**

■ Pythonは**数値**のデータ型として整数,実数,虚数をサポート



10

算術演算子

算術演算子	意味	例	結果
+	加算	10 + 3	13
_	減算	10 – 3	7
*	乗算	10 * 3	30
/	浮動小数点の除算	10 / 3	3.3333
//	整数の除算	10 // 3	3
%	剰余	10 % 3	1
**	指数(べき乗)	10 ** 3	1000

浮動小数点(実数)と整数





(参考) 浮動小数点と固定小数点

実数

In [29]: № 0.099 + 12.001

Out[29]: 12.1

0.099を指数表記すると

※ 0.099や0.00099は固定小数点形式 9.9 e⁻² と9.9 e⁻⁴は浮動小数点形式

In [30]: ▶ 9.9e-2

Out[30]: 0.099

仮数e指数:9.9(仮数)×10のマイナス2乗(指数) ⇒ 小数点の位置が移動(浮動小数点)

In [31]: ▶ -9.9e4

Out[31]: -99000.0

In [32]: ▶ 9.9e-4

Out[32]: 0.00099

変数と代入

■ 変数(variable)はプログラムの基本。以下の a が変数

```
In [1]: 

a = 10

a = a + 3

print(a)
```

- ① 10を変数aに代入
- ② 変数aに3を加算し、結果をaに代入
- ③ 変数aの内容を出力

✓ print関数は変数も引数にできる

■ププログラムでは'='は等号ではなく,代入を意味する。 情報処理試験の疑似言語では'←'で代入を表現

変数

■ 変数 (variable) はデータの入れ物

$$a = 10$$
 $a = a + 3$
 $a = a + 3$
 $a = a + 3$
 $a = a + 3$

変数名「a」に数値10を代入(設定ともいう)

「a」に数値3を加算。結果を「a」に代入 ⇒ 「a」は13に

text_hellow = "おはよう"
"おはよう"
text_hellow

文字列も変数に代入できる

変数名

- 変数の名前ルール(naming rule)
 - 1. 小文字と大文字の半角英字 (a/Aからz/Z)
 - 2. 数字(0から9)
 - 3. アンダースコア (_)
 - 4. 小文字と大文字は区別される (別の変数とみなされる
 - 5. 全角文字は変数には使えない! (特に空白に注意)
 - **6. 数字**は名前の**先頭**には使えない!
 - 7. Pythonの**予約語**は使えない!
 - ✓ naming rule に従わないとプログラムエラーとなる

変数の名前ルール

```
✓#はコメント文。説明文などを自由に書ける
M = 10
 a = A + 1 # 大文字と小文字は別
                                           注) コメント文は実行されない。無視される
 print(a)
 NameFrror
                               Traceback (most recent call last)
 <ipython-input-1-c85437e86049> in <module>
      1 a = 10
 ----> 2 a = A + 1 # 大文字と小文字は別
      3 print(a)
 NameError: name 'A' is not defined
▶ 1a = 10 # 数字で始めるとエラー
 1a = 1a * 10
 print(1a)
   File "<ipython-input-2-c65da70c6e17>", line 1
     1a = 10 # 数字で始めるとエラー
```

SyntaxError: invalid syntax

■②この3行のプログラムをjupyterに入力し、修正してみよう

変数の名前ルール:Pythonの予約語

■ Pythonの予約語は変数に使えない

```
In [1]:
          M import keyword
             keyword.kwlist
    Out[1]: ['False',
              'None',
              'True',
              'and',
              'as',
               'assert',
               async',
               'await',
              'break',
              'class',
               'continue',
              'del',
              'elif',
               'else',
               'except',
              'finally',
              'for',
```

```
'for',
'from',
'global',
'import',
'in',
is',
'lambda',
'nonlocal',
'not',
or',
'pass',
'raise',
'return',
'try',
'while',
'with',
'yield']
```

変数名

■ 他人が見ても分かりやすい変数名をつける

自分のBMIを計算してみよう

23.529411764705884

```
      H 自分のBMIを計算

      height = 1.70
      # 身長

      weight = 68
      # 体重

      bmi = weight / height ** 2
      # 計算式

      print(bmi)
      # 25以上は肥満
```

19

複数同時

セミコロン;で、複数の代入文が一行に書ける

- a = 100; b = 1.2345; c = 'Python' print(a,b,c)
 - 100 1.2345 Python

✓ print関数の引数には、カンマで複数の変数、文字列、数値を書ける

一行で複数の変数に代入できる

- a, b, c = 100, 1.2345, 'Python'
 print(a,b,c)
 - 100 1.2345 Python

文字列 (string) と連結

- シングルクォート'で括る; **'文字列'**
- ダブルクォート"で括る;**"文字列"**

```
シングルクォートの文字列
In [1]: ▶ my familyname = '安'
      ダブルクォートの文字列
In [2]: ▶ my_firstname = "平勲"
In [3]: ▶ my_name = my_familyname + my_firstname # 文字列の連結
                                          ✓ 文字列は + で連結できる
In [4]: ▶ print(my_name)
         安平勲
```

21

文字列(string)

■ シングルクォート' とダブルクォート"の使い分け

英語を使う場合は特に注意が必要

```
In [2]: N text1 = "I'm a student of KCGI" text2 = "私は'KCGI'の学生です" text3 = "私は'KCGI'の学生です" print(text1,text2,text3)
```

I'm a student of KCGI 私は'KCGI'の学生です 私は' KCGI' の学生です

文字列と連結

■数を+すると…

```
数字を加算
In [13]: ▶ number = 10 + 3
                          # 数字を加算
         print(number)
         type(number)
                    # 型を確認
         13
  Out[13]: int
      文字列を連結
In [14]: ▶ string = '10' + '3' # 文字列を連結
         print(string) # 結果を確認
         type(string) #型を確認
         103
  Out[14]: str
```

✓ 数字を''で括ると文字列 なので、「」

文字列;複数行

■ 'または"を3つ続けると複数行の文字列が書ける

```
In [11]: ▶ a = '''私の名前は
In [12]: ▶ print(a)
          私の名前は
             安
             平勲
In [13]:
   Out[13]: '私の名前はYn 安Yn
                             平動'
```

文字列; エスケープシーケンス

■ エスケープ文字(エスケープシーケンス)

エスケープ文字	意味
¥n	改行
¥t	tab
¥r	キャリッジリターン
¥'	シングルクォート
¥"	ダブルクォート

- ・'¥'はwindows
- ・Macでは'\ (バックスラッシュ)



■ print関数では'¥'の直後の文字を『特殊文字』として扱う

input関数

■ input();キーボードから入力した**文字列**を受け取る**関数**

strings = input("プロンプト文字列")

文字列を受け取る変数

コンソールに表示される文字列

- 実行すると、コンソールにプロンプト文字列を表示して、キーボードからの入力を待つ状態になる
- キーボードからenterするまでに入力した文字列をプログラムに取り込む
- 取り込んだ文字列は変数(上の例ではstrings)に代入できる

(参考) Pythonは動的型付け言語

■ プログラミング言語は**静的型付けと動的型付け**の二種類に大別できる

- 動的型付け言語では,**変数**の<u>型(数値,文字列など)を</u> 宣言する必要がない
 - ✓ 静的型付け言語ではプログラマが型宣言する必要あり
 - ✓ Pythonインタプリタが自動で変数の型を判断する

静的型付け対動的型付け

静的型付け言語	動的型付け言語
C, C++, C# Java, • • •	Python JavaScript, Perl • •

- 動的型付け言語のメリット
 - a. 記述量(コーディング量)が減る
 - b. 比較的簡単にプログラムが書ける ⇒ <u>生産性が良い</u>
- 静的型付け言語のメリット
 - a. 文法エラーがコンパイル時に分かる
 - b. メモリ領域の最適化が図られる ⇒ <u>処理パフォーマンスが良い</u>

動的型付け

```
整数 (int) と実数 (float)
In [25]:
        ▶ integer number = 10
           float number = 3.14
In [26]: ► type(integer number)
   Out[26]: int
Out[27]: float
        整数(int)と実数(float)を掛けると
In [28]: ► XXX = float number * integer number
           print(XXX)
           31.4000000000000002
In [29]: ► type(XXX)
   Out[29]: float
```

Pythonが 'integer_number'と 'float number'を動的型付け



■② 変数の型はtype()関数で分かる

Pythonが 自動的に判断して floatに型付け

型変換(キャスト)

■ 数値と文字列の加算はできない。型変換が必要

```
ダメなケース(数値と文字列の加算)
```

文字列型を浮動小数点型に変換する

```
In [13]: In number10 = float(string10) print(number10 + number3)
```

➤ float関数で実数に型変換 注)int()で整数に型変換

ブール値(boolean) と比較演算子

- ブール値は真/偽, Yes/Noなどの 2 値'True'と'False'だけを取る型
- 比較演算子は2つの数値、文字列、変数を比べ、下記のブール値を返す

比較演算子	例	説明
==	a == b	a とbが等しい時 True , 等しくなければ False
!=	a != b	a とbが等しくない時True
>	a > b	a がbより大きい時True
>=	a >= b	a がbより大きいか等しい時True
<	a < b	a がbより小さい時True
<=	a <= b	a がbより小さいか等しい時True

31

ブール値と比較演算子

```
In [14]: \mathbf{M} a =10; b = 10; c = 3
In [15]: N a == b
   Out[15]: True
In [16]: ► a != b
   Out[16]: False
In [17]: ► a >= b
   Out[17]: True
In [18]: ► a > c
   Out[18]: True
In [19]: ► a <= c
   Out[19]: False
```

▶ ';'で区切れば、複数命令を1行に書ける

➤ aもbも10なので・・・

▶ aが10, cが3なので・・・

文字列の検索(in)とブール値

■ 文字列の検索(in)でもブール値を返す

▶ 文字列"abcde"に"a"があるのでTrue

➤ "f"はないからFalse

配列とリスト

- 配列(array)はプログラミングでよく使われるデータ構造
- Pythonでは**リスト**listと呼ぶ組込み(built_in)のデータ型

```
In [1]: \triangleright numbers = [2, 4, 6, 8, 10]
           print(numbers)
           [2, 4, 6, 8, 10]
In [4]: ▶ weekdays = ['月曜','火曜','水曜','木曜','金曜']
           print(weekdays)
           ['月曜', '火曜', '水曜', '木曜', '金曜']
        リスト (list) のスライスslice
In [2]: ▶ numbers[0]
   Out[2]: 2
In [6]: ▶ weekdays[0]
   Out[6]: '月曜'
In [5]: N weekdays[4]
   Out[5]: '金曜'
```

- ▶ 文字列や数値(要素と呼ぶ)をカンマ (,)で並べ、鎌角括弧[]で括る
- ▶ リストも変数名をつけられる

- ▶ リスト名[インデックス番号]で要素を取り出せる
- ▶ インデックス番号は 0 から始まる要素 の順番

34

リストの連結・検索

```
リストの連結(+)
 ▶ weekdays = ['月曜','火曜','水曜','木曜','金曜']
weekends = ['土曜','日曜']
    weeks = weekdays + weekends
   print(weeks)
   print(weeks[0], weeks[6])
    ['月曜','火曜','水曜','木曜','金曜','十曜','日曜']
    月曜 日曜
リストの検索 (in)
 ▶ '土曜' in weeks
91: True
 ▶ '土曜' in weekdays
11: False
```

▶ リストは文字列と同様,連結 できる

▶ 文字列と同様、検索(in) もできる

■プリスト(list)は別の回で詳しくやります